

新年を迎えて



一般財団法人日本ITU協会
理事長

ふくおか とおる
福岡 徹

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

いよいよあらゆるものがネットワークにつながるIoT時代に突入です。それも単につながるだけでなく、AI技術を背景にし、高度で緻密なサービスが実現されます。

一般家庭にはAI技術を活用したスマートスピーカーによる情報収集や家電制御などが普及し始めました。車やドローン、船舶等の自動運転、ロボット制御なども一層の高度化が進んでいます。また、昨年(2018年)末から新4K/8K衛星放送が始まり、みちびき4機体制による我が国独自の測位システムサービスも始まりました。

このような革新的なICTのうねりの中、当協会もその動向に沿うべく業務に取り組んでおります。

昨年を振り返って見ますと、ITUの最高意思決定機関である全権委員会がドバイ(アラブ首長国連邦)で開催されました。我が国は理事国としての再選を果たし、橋本明氏が無線通信規則委員会(RRB)委員として選任されました。国内では、第5世代移動通信システムの国際協調に向けた国際会議(ITU-R SG5 WP5D)が開催され、当協会は、両会議の事務局運営に携わる事ができました。

南アフリカでは、ITU世界テレコム2018が開催され、現地速報を発信させていただきました。

また、昨年5月17日には「第50回世界情報社会・電気通信日のつどい」を開催しました。ここでは、ITU-T等における国際標準化活動で活躍された井上友二氏が総務大臣賞を、また、ネパールにおける無線通信ネットワークの構築等に多大な貢献されたマハビール・ブン氏が日本ITU協会賞特別賞を受賞されました。誠に嬉しい限りです。

さらに、アジア地域の開発途上国の通信関係者に対する研修(APT研修)や、国際交渉能力向上のための体験カリキュラムを導入した協会独自のパフォーマンスセミナーも大変好評裏に終了することができました。

そして今年(2019年)、国際的な電波秩序を規律する無線通信規則改正に関わる世界無線通信会議(WRC-19)がエジプトで開催されます。また、ITU世界テレコム2019は、ハンガリーで開催されることになりました。

日本国内では、この世界無線通信会議に向けた準備会合(APG)やAPT域内の電気通信分野の標準化活動に関する会合(ASTAP)が開催される予定です。

本年も、日本政府、賛助会員の皆様とともに、これらの活動を支えてまいる所存です。

最後に、皆様の御健勝と御活躍を心より御祈念申し上げます。新年の御挨拶とさせていただきます。